

# 真の豊かさとお幸せを実感できる 山形を目指して

山形県 未来企画創造部長 會田 淳士  
(東北活性化研究センター 参与)



## 1. 山形県の概要

山形県は、東北地方の日本海側に位置し、東京から概ね北に300km、山形新幹線で約3時間の距離にあり、全国7割の生産量を占める「さくらんぼ」、デビュー以来常に特Aに選ばれている「つや姫」、「雪若丸」の生産地として知られています。お米は他にも、令和9年にデビュー予定の水稲新品種があり、名称を「ゆきまんでん」と決定しました。「雪のように白く、美味しさ満点、笑顔満点のお米」との思いが込められております。新しいブランド米として大きな期待が寄せられておりますので、今後の展開を楽しみにしていただければと思います。他にも、ラ・フランスをはじめとする果物の生産が盛んであり、令和7年は、明治8年(1875年)に明治政府から配布された、さくらんぼなどの果樹の苗木を県庁の敷地に植えてから150周年を迎



さくらんぼ狩り体験



「ゆきまんでん」名称決定



山形県へのアクセス

え、「いちずに、かじつ。」をキャッチコピーとして、東京・大阪をはじめ、県内外へ県産フルーツの魅力を積極的に発信するとともに、観光誘客の促進や多様な産業との連携などに取り組んでいます。

また、本県は蔵王、月山、鳥海、吾妻、飯豊、朝日と日本百名山に数えられる秀麗な山々に囲まれ、南から連なる米沢、山形、新庄の各盆地と庄内平野を「母なる川」、最上川が流れる、美しい自然に恵まれた地域です。明治初期にわが国を訪れた英国の世界的な女性旅行家、イザベラ・バードは、本県の実り豊かな大地と人情の



【やまがた百名山】鳥海山(酒田市、遊佐町)



【日本一の滝王国】滑川大滝(米沢市)

温かさを称賛し、「東洋のアルカディア(理想郷)」という有名な言葉を残しています。

さらに、このたび、米有力旅行メディアである「ナショナルジオグラフィック」が「2026年に行くべき世界の旅行先25選」として、日本から唯一、山形県が選出されました。東京から300kmほどの距離にもかかわらず、別世界のような静かさを体験できる場所であり、聖なる山々、静寂に包まれる神社仏閣、フォトジェニックな温泉、四季を通じて各地で開催される伝統的な祭りなど、古くからの伝統と神秘的なアウトドア体験ができる点が評価されたと聞いております。

さて、そんな山形県の、「人と自然がいきいきと調和し、真の豊かさと幸せを実感できる山形」を目指して、本県の将来に向けて目指すべき姿、今後の施策展開の方向性をご紹介します。

## 2 将来に向けて目指すべき姿

山形県では、令和7年5月に人口が100万人を割り込むなど、少子高齢化を伴う人口減少が続いています。あらゆる分野において人手不足が深刻化しており、地域経済をはじめ、様々な分野に影響が生じています。こうした状況の中だからこそ、決して後ろ向きにならず、きちんと前を向いて山形県の強みを最大限に活かすとともに、外部の活力の取込みなどにより、新しい強みを作ることが必要であると考えております。

本県には、豊かな自然や先人から受け継がれてきた優れた文化、人と人との絆の強さ、ものづくりや農の匠の技など、多くの魅力や資源があります。また、本県の歴史・文化の根底には、人と自然との望ましい関わり合い、日々の暮らしや地域における支え合い、お互いを活かし合う精神といった「共生」の考え方、さらには、地域の企業や大学など多様な主体が力を合わせ、新たな価値を創造してきた「共創」の考え方があります。

政府では、地方創生総合戦略を打ち出し、「強い経済」「豊かな生活環境」「選ばれる地方」という目標を設定し、地方創生を推進するとしております。こうした政府の動きとも連動しながら、前述の本県で培われてきた魅力や資源、考え方などを活かし、また、新たな創意工夫にも積極的に挑戦することで、本県での暮らしの魅力を高め、誰もが住みやすく、幸せを感じることができる山形県を目指していきます。

## 3 今後の施策展開の方向性

山形県では、人口減少対策を県政の最重要課題と位置づけており、令和7年3月に策定した「第4次山形県総合発展計画 後期実施計画」においても、人口減少のスピードの緩和に取り組む「抑制策」と、人口減少が進む中であっても生活の質と地域活力の維持・向上を図る「対応策」の両面から、施策を推進していくこととしております。

県の来年度の予算編成や組織機構等の検討に先立ち、先般公表した「令和8年度 県政運営の基本的考え方」においては、こうした人口減少対策の考え方を踏まえつつ、①県民のウェル

ビーイングの向上、②県内経済の持続的な成長、③安全・安心な地域づくり の3つを重点化の方向性として示しており、ここではその概略について紹介します。

## 令和8年度 県政運営の基本的考え方

### <重点化の方向性>

- ① 県民のウェルビーイングの向上
- ② 県内経済の持続的な成長
- ③ 安全・安心な地域づくり

⇒ 地域に賑わいを創出し、魅力を高めることで、女性・若者をはじめ、多様な人材を惹きつけ、持続可能なやまがたを実現

重点化の方向性の1つ目は、「県民のウェルビーイングの向上」です。県民の皆様が将来に明るい希望を持って、快適に楽しく住み続けることのできる県づくりに向けて、恵まれた自然環境や優れた食文化といった本県ならではの豊かさを活かし、デジタルも活用しながら、暮らしの質を高めていくことを目指します。

子どもの教育環境の充実や若者・女性の志向に応じた就業の場の拡大を進めていくとともに、活躍の阻害要因となる無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消にも取り組みます。加えて、地域における多文化共生の推進や文化芸術・スポーツの振興、交通・医療等の生活必需サービスへのデジタル技術の導入などにも取り組んでいきます。

2つ目は、「県内経済の持続的な成長」です。社会経済情勢の変化をチャンスと捉え、生産性の向上や付加価値の増大を推進します。

本県の産業に蓄積されてきた知識・技術や、高いポテンシャルを有する環境資産等の「地域資源」と、外部の人材・資本等の「国内外の活力」の掛け合わせによる高付加価値な製品・サービス創出の促進や、AI・デジタルの徹底活用による業務の効率化・高度化に取り組み、県民所得の向上を目指していきます。

産学官金の連携による人材育成や様々な主体

が取り組む人手不足・人材確保対策への支援、外国人材の受入れの拡大・定着の促進、「ふるさと住民登録制度」を活用した関係人口の創出・拡大などに取り組みます。加えて、インバウンドの受入れ拡大や農林水産業の成長産業化に向けた取組み、再生可能エネルギーの導入拡大をはじめとした脱炭素に向けた取組みなどを推進していきます。

3つ目は、「安全・安心な地域づくり」です。災害の頻発・激甚化や地域の担い手減少等を踏まえ、県民の安全・安心を確保するための取組みを充実していきます。

医療や交通等の生活サービスの維持・向上を進めるとともに、AI・デジタルも活用した防災対策や気候変動対策を強化していきます。

地域コミュニティの維持・活性化や、医療・福祉・介護の提供体制の確保など住民に身近な安全・安心の確保に取り組むとともに、流域治水対策やインフラの長寿命化対策など、ハード・ソフト両面からの災害対策の強化を進めていきます。加えて、鉄道、航空、高規格道路など、利便性の高い広域交通ネットワークの充実に向けて、取組みを強化していきます。

これらにより、地域に賑わいを創出し、魅力を高めることで、若者・女性をはじめとする多



様な人材を惹きつけることのできる持続可能な山形県、さらには、第4次山形県総合発展計画の基本目標である「人と自然がいきいきと調和し、真の豊かさと幸せが実感できる山形」の実現を目指してまいります。

#### 4. 未来に向けた本県の主な取組み

今年度は、県民の皆様や市町村、経済界などの代表の皆様と一緒に、人口減少が進む中にもあっても、どうすれば将来にわたって明るい山形県をつくっていただけるかについて議論する「やまがた未来共創会議」を立ち上げました。会議では、人口減少の中での新たなチャレンジや創意工夫などの前向きな発言をいただいております。地域全体が一体となって地域の活力を生み出す取組みの機運の醸成が図られております。

また、地域の活力を維持・向上させ、持続的に発展するためには、交流の拡大により外部の活力を呼び込むことが必要です。そのためには、広域的な「圏域」の中で、それぞれの地域の特色を活かして連携・補完し合いながら、人的・経済的な交流の拡大を図り、一体的な発展に結びつけていく視点が重要となります。こうした本県の持続的な発展や県民のウェルビーイング向上には、インフラ等の社会基盤整備が必要不可欠であり、石巻新庄道路(国道47号線)や新潟山形南部連絡道路(国道113号線)をはじめと

する広域道路ネットワークの早期形成、山形新幹線米沢トンネル(仮称)及び奥羽・羽越新幹線の早期実現、災害で被災した米坂線の早期全線復旧、地方空港滑走路の2,500メートル以上への延伸による地方空港の機能強化等の課題に取り組んでいます。

#### 5. むすび

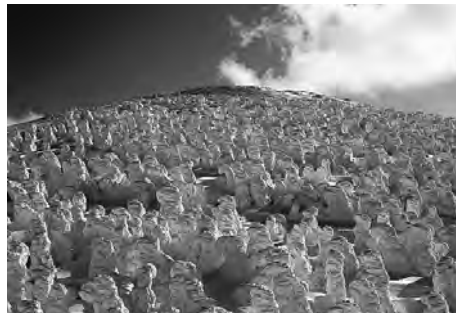
山形県は本格的な冬を迎えています。冬は積雪が多く、県内全域が「豪雪地帯」に指定され、そのうち特に積雪の多い26市町村が「特別豪雪地帯」に指定されている全国でも有数の豪雪地帯ですが、県内各地のスキー場でウィンタースポーツを楽しめるほか、寒鱈まつりや雪灯籠まつりなど冬ならではのイベントも開催されます。特に、蔵王連峰(奥羽山脈の一部)の特殊な気象条件と植生が造り出す、蔵王の「樹氷」は、厳寒の自然がつくり出す、まさに芸術品です。

また、県内には温泉地の数が130か所以上あり、35市町村すべてに温泉が湧き、どこに行っても温泉を楽しむことができます。ほかにも、県内には個性豊かな48の酒蔵、23のワイナリーがあり、季節豊かな風土や作り手の文化に恵まれた、日本一の美酒県と自負しています。

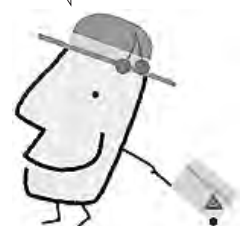
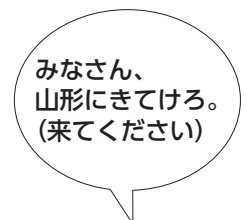
ぜひ、山形県まで足を運んでいただき、魅力満載の冬の山形を満喫されてはいかがでしょうか。



银山温泉



蔵王の樹氷



山形県おもてなし局長 きてけろくん